

( 電子メール施行 )  
農技第 1 4 6 8 号  
令和 3 年 2 月 9 日

各関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

病虫害発生予察防除情報第 3 号を發表しました。

昨年の水稲作では、暖冬によりスクミリンゴガイの越冬数が多くなり、被害が拡大しました。

昨年に本種の発生が確認された地域では、現在も多くの貝が越冬していると考えられますので、冬期耕うんによる防除の指導をお願いします。

---

### 令和 2 年度 病虫害発生予察防除情報 第 3 号 スクミリンゴガイの防除対策 (冬期耕うん) について

- 1 対象作物                   イネ
- 2 害虫名                   スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)
- 3 対象地域                 県南部 (特に播磨地域と淡路地域)
- 4 スクミリンゴガイについて
  - (1) スクミリンゴガイ (写真) は水田内や水路等で越冬し、田植え直後のイネを食害する。
  - (2) 今季は寒さが厳しい期間があったものの、昨年 10 月 1 日から今年 1 月 31 日までの平均気温は、過去 10 年の平均値と同等であり (図 1)、また、今後 1 か月の気温が高い確率は 60% (近畿地方 1 か月予報、令和 3 年 1 月 28 日、大阪管区气象台発表) と予想されている。

スクミリンゴガイの越冬が可能な地域は、ほぼ平年並の冬期の気温条件に準ずると考えられる (図 2)。
  - (3) 昨年に本種の発生が見られた地域では、越冬数を減らすため、冬期に耕うんを実施することが望ましい。



写真 スクミリンゴガイ (左) と卵塊 (中央と右)

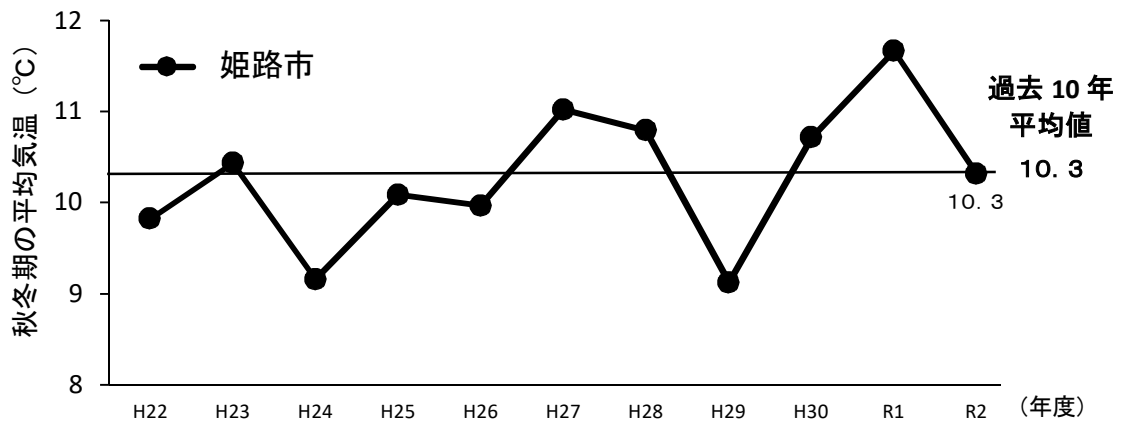


図1 過去10年間の秋冬期（10月1日～1月31日）の平均気温（°C）

気象庁のアメダス観測地点（姫路市）から

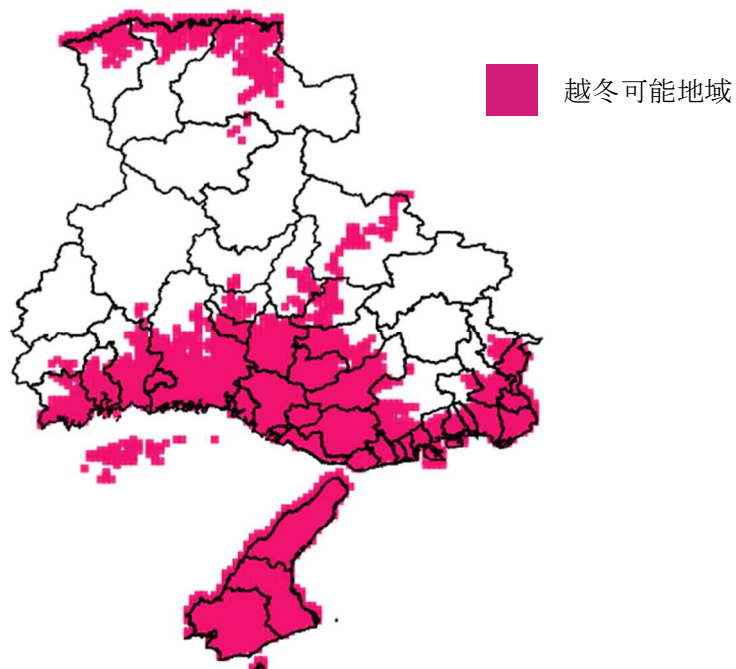


図2 低温期の気温から推定されるスクミリンゴガイ越冬可能地域

メッシュ農業気象データ（平年気温データ）を用いた低温積算温度（小澤・牧野, 1988）により推定（積算期間：10月1日～翌年3月31日）

## 5 防除対策

### (1) 冬期の耕うん（物理的防除）

厳冬期に土壌が乾燥した頃、土壌表面を砕土するように耕うんし、殻を破砕して殺貝するとともに、土中にいる貝を掘り起こして寒気にさらすことで凍死させる。耕深は10cm程度で効果が得られる。

できる限り、トラクターの走行速度は低速に、PTO 回転速度は高速にして耕うんすると効果が高い。

### (2) ほ場の均平化

水稻移植後の浅水管理は被害回避に有効であるが、ほ場内の凹凸があると深い部分で集中的に被害を受けることがある。冬期にレーザーレベラーなどで田面の均平化を図り、ほ場内の凹凸を無くすことで効果的な浅水管理が可能になる。

### (3) その他

本種による被害を回避するためには、年間を通して防除対策に取り組む必要がある。冬期耕うんを実施したほ場においても、小さな貝は破砕できない可能性があることから、移植期の対策（網の設置による水路からの侵入防止や薬剤防除など）の準備を早めに行う。

## 6 注意事項

トラクターなどの農業機械に付着した泥と一緒に、スクミリングガイが他のほ場へ拡散する事例が報告されている。複数のほ場で同一の農業機械を使用する場合は、未発生ほ場から作業を始め、発生ほ場で使用した後は、泥をよく落とし、他のほ場へ持ち込まないようにする。

なお、その他の防除対策や本種の詳しい生態は、農作物病害虫・雑草防除指導指針の参考資料「3-3 スクミリングガイの生態と防除対策」を参照にされたい。

(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/haishinfile/list/hyogo>)

\*この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページ

(<http://www.hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/>) に掲載しています。

問い合わせ先	兵庫県病害虫防除所	0790-47-1222
--------	-----------	--------------